

集計データをもとに、傾向を判断し、事務局でまとめたもの。

対象	時間	場所	頻度	担い手	内容	意見の多さ	実現可能性	既存の居場所で似ているもの
1 誰でも	夕方～夜	自宅近く、交通の便の良いところ	毎日	ボランティアと家族	誰でもふらっと立ち寄れる所。親の情報交換の場。 複数の活動内容があり、自由に取り組める。当事者も家族も、障がいの有無に関わらず	多		
2 自力で通える人は誰でも	朝から夜まで(いつ行ってもいい)	福祉センターや木口記念会館	月に数回	ボランティアと家族	コミュニケーションを主な目的として、ふらっと立ち寄れる所。	中		・「プラスワン打出浜ブーケ」 ・就労準備支援事業「寄ってカフェ」 ・NPO法人好きと生きるによる居場所事業「おかえり」
3 誰でも	夕方～夜	食事提供ができる所。	毎日	NPO法人やボランティア、福祉団体など	食事(安価・実費)が食べられる所。子ども食堂のような、食事を通じた社会参加の場。	中		・わかば子ども食堂 ・山の子会のこども食堂「もぐもぐ」
4 誰かの付添いが必要な人・介助が必要な人	既存の事業所の閉所時間を延長する(夕方)	みどり地域生活支援センターなど市内の事業所	できれば毎日	事業所の職員	生活介護の延長・日中一時支援の利用と同様の形。生活に根差したプログラムがある(例.paypayの使い方、セルフレジの使い方の練習など)	少		日中一時支援